

日本小児循環器学会学校心臓検診研究委員会を休会するにあたって

日本小児循環器学会学校心臓検診研究委員会

委員長：馬場 國藏

委員：浅井 利夫，北田 実男，清沢 伸幸

長嶋 正實，羽根田紀幸，馬場 清

原田 研介，本田 恵，松岡 優

浦 清

本委員会は心電図委員会の後を受け2期にわたって活動してきた。これまで作成された学校心臓検診のガイドラインを文末に示す。これらによって学校心臓検診は精度よく遂行できるはずであり、本委員会の一応の使命を果たしたものと考え、一旦ここで本委員会を休会することにした。休会に際して学会員各位に学校心臓検診を取り巻く環境の厳しさを知っていただき、検診精度の維持向上に努めていただきたくそのお願いを最終報告とする。

最近検診の遂行母体である自治体など行政の経費節減、情報公開推進の一環として、心臓検診業務についても一般入札によって委託先が決められようとしている。その際、適正な精度を保障した入札であればよいが、えてして契約金額の高低によって委託先が決められてしまう嫌いがある。そうなると検診精度の低下を来しやすい。そこで検診精度の維持向上を図るために以下の項目を契約条件として付け加えるように働きかけ、監視するよう、会員各位にはそれぞれの立場で努力していただきたい。

下記のガイドラインに則った検診を行う。

心臓病調査票は児童・生徒でなく保護者に記載させる。

心電図の収録は適正に行うことと、収録技師の教育が必要である。

心電図の判読は下記のガイドラインを参考に小児・若年者の心電図に習熟した医師が行う。

一次検診を担当した検診機関が最終検診まで管理監督する。これが非常に大事である。つまり一次検診から最終検診までがつながっていることであり、一次検診を行えば後は児童・生徒サイドで適当に受診しなさいという検診システムは良くない。

検診の最も大事なことは検診後の事後管理である。そ

のためにも継続的な検診システムが必要である。以上、委員会を休会するにあたってのお願いとする。

【現在までの学校心臓検診のガイドライン】

- 1) 点数制による小児心電図心室肥大判定基準。日小循誌 1986；2：248
- 2) 小児心電図心室肥大判定のめやす。日小循誌 1986；2：248
- 3) 日本小児循環器学会心電図委員会：学校心臓検診 二次検診対象者抽出のガイドライン 一次検診の心電図所見から。日小循誌 1996；12：725-730
- 4) 日本小児循環器学会心電図委員会：学校心臓検診 二次検診対象者抽出のガイドライン 一次検診の4誘導心電図所見から。日小循誌 1997；13：723-727
- 5) 小児心電図専門委員会：小児2点心音図判読の実際。日小循誌 1994；9：707-708
- 6) 日本小児循環器学会学校心臓検診研究委員会：学校心臓検診二次検診以降の進め方 二次検診対象者抽出ガイドラインの心電図所見から。日小循誌 2000；16：965-966
- 7) 日本小児循環器学会小児不整脈薬物治療ガイドライン作成委員会：小児不整脈治療のガイドライン。日小循誌 2000；16：967-972
- 8) 日本小児循環器学会学校心臓検診研究委員会：心臓病に対する『学校生活管理指導表』の活用，運動部(クラブ)活動可と禁の判定のめやす。日小循誌 2002；18：608-609
- 9) 日本小児循環器学会学校心臓検診研究委員会：基礎疾患を認めない不整脈の管理基準(2002年改訂)。日小循誌 2002；18：610-611
- 10) 日本小児循環器学会学校心臓検診研究委員会：学校心臓検診調査票の改訂。日小循誌 2004；20：50-51
- 11) 日本川崎病研究会運営委員会：川崎病の管理基準(2002年改訂)。日小循誌 2003；107：166-167